

運動部で大麻 大学危機感

大学運動部で違法薬物を巡る問題が相次ぎ、統括組織の一般社団法人「大学スポーツ協会」(UNIVAS)が加盟221大学に向けて注意文書を送付するなど対策に乗り出した。近く指導者向けの研修会も開く予定だ。新型コロナウイルス感染拡大による部の活動休止で、指導者の目が届きにくい状況が影響しているとみられ、専門家は「大学は学生の啓発など細やかな対応を」と警鐘を鳴らす。

コロナで目標失い?

◆大学運動部員による最近の主な違法薬物を巡る不祥事

2020年1月	日大ラグビー部員が大麻を所持していたとして逮捕
10月	近大サッカー部員5人が大麻とみられる薬物を使用と大学が発表
	東海大硬式野球部の複数の部員が大麻とみられる薬物を使用したと大学が発表

※いずれも無期限活動停止、日大は再開

の調査に「コロナで暇になり、興味本位でやってしまった」と説明したという。部はコロナ禍で4月上旬、6月下旬に活動を休止。渥美寿雄副学長は「監督と選手のコミュニケーションが

取りにくかったのも一因と思う」と話した。

東海大も10月17日、硬式野球部の複数の部員が寮で大麻とみられる薬物を使用したと発表。寮は4月から閉鎖され、再開した7月以降に使ったとみられる。大学は部を無期限の活動停止とし、同26日のプロ野球のドラフト会議を受けた記者会見を中止した。今年1月にも日大のラグビー部員(当時)が大麻を所持したとして大麻取締法違反容疑で逮捕されるなど、ルールの順守が求められる運動部員による違法薬物を巡る問題が後を絶たない。警察庁によると、大麻の

指導者の目届かず ■ SNSで入手容易

所持や使用などで摘発された大学生は2015年の31人から年々増加し、19年は132人。SNSで入手しやすくなったことが背景にあるとみられるが、運動部特有の要因もある。

今年に入って発覚した部は所属リーグで優勝経験のある伝統校で、スポーツ推薦で入学した選手も少なくない。「スポーツ・コンプレックス教育振興機構」の武藤芳照代表理事は「中学、高校で優秀だった選手がレギュラーになれず、コロナ禍で練習や試合がなくなって将来の見通しがつかない中で、逃避の手段として手を出してしまう」と指摘。「部員が主体となり、大麻の危険性などを学ぶ必要がある。指導者や大学側の仕事は、こうした動きを支援することだ」と語る。